



乙亥秋日 日孝胥

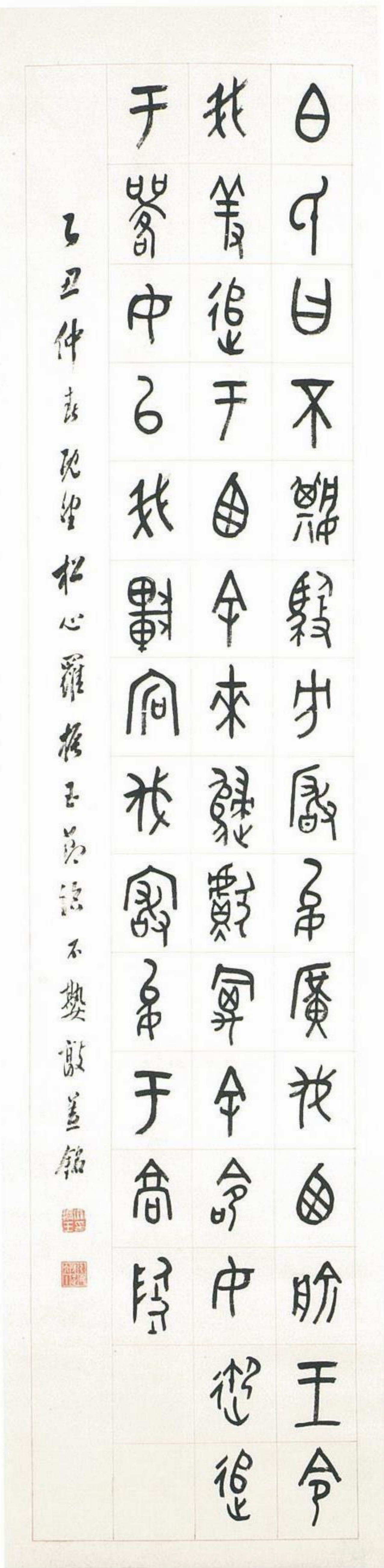


海藏楼
(朱文方印)
2.0 × 2.0cm



鄭孝胥印
(白文方印)
4.2 × 4.1cm

鄭孝胥は、溥儀が紫禁城を追われた一九二四年以後、天津の清室内務府弁事処に待講として仕え、その教育に当たった。清朝の復興を念願し、一九三二年の満州国建国とともに国務総理に就任する。本作のような絵画は、彼にとっては余枝に過ぎなかったものの、古松図は人々に珍重された。



乙丑仲夏 羅振玉 臨不嬰敦蓋銘



羅振玉印
(白文方印)
2.0 × 2.0cm



乙丑年正六十
(白文方印)
2.2 × 2.2cm

羅振玉は、字を叔言といい、雪堂と号した。浙江省紹興の出身。清末の大学者で、甲骨文字解読や青銅器の銘文研究などで多くの業績を残した人物。また、書作においても自らが研究した甲骨文字や金文を多く臨書した。辛亥革命後来日し、京都で多くの日本人学者と交流を持ち、帰国後は溥儀の家庭教師を務めた。本作は、西周時代に作られた「不嬰敦」という青銅器のふたに鑄込まれた銘文を臨書したもので、学者としての謹厳実直さが、規律正しく格調ある筆使いによって伝わってくるような作品である。